

## コラム

## 夏の夕涼み

夏、日差しを避けて縁側で夕涼み...こんな経験はありませんか。夏の日差しは、縁側まで射し込んで来ません。伝統的な日本家屋では、南側に軒を出して縁側をつくり、夏の日差しを家の中に入れない工夫がありました。

六月二十一日は夏至。一年で最も昼時間の長い日が夏至です。このときの太陽は、最も高くのぼる南中高度で約 77 度。この太陽の日射は、軒の高さ 2 m あれば、軒先から 0.4 m ぐらいまで射し込んできます（高さの 0.2 倍）。暑さ寒さも彼岸までと言いますが、彼岸の秋分では、太陽の南中高度は約 53 度、射し込む日射は高さの 0.7 倍。ですから、この高度 30 度から 53 度の暑い日射（高さの 0.2 倍～0.7 倍）を家の中に入れない工夫をすることで、夏の日中でも涼しく過ごすことができます。さらに軒先に「すだれ」を下げたり、グリーンカーテンを育てるのも有効です。

もうひとつ、夏至は日出が早く日没が遅くなるので、昼時間が最も長くなります。その日出や日没の方位は、南中から東・西それぞれに 121 度、このことから、南に面した縁側には、朝日や夕日が射し込まないことがわかります。真東の日射は朝 8 時ごろ、真西の日射は夕方 5 時ごろとなり、その前後では日射が射し込んで来ません。西向きの窓に、西日対策をしっかりと考えれば、日射による暑さを避けることができます。

※太陽の高度や方位は  
長野県小諸市・緯度 36.32 度の場合  
です。

夏至の太陽は、南中高度で約 77 度。  
縁側には暑い陽光が射し込まず、日差し  
の暑さを避けられます。

【文責】 佐藤 重



## 長野県地球温暖化防止活動推進員有志

赤尾興一	有賀宏道	宇野親治	佐藤 重	島川清一
中野昭彦	樋口嘉一	深澤優子	細田恵莉	壬生善夫
宮澤 信	宮原則子	本木修一	山岸恒夫	(50 音順)

2020 年 7 月 初版 / 2025 年 7 月 補訂